

Aコース：幼～低学年

領域：造形遊び

紙

担当

白百合女子大学

椎橋 げんき

◆身近な存在「だった」新聞紙

新聞紙と言えば、いつも家で束になっていて、丸めてボールとバットを作って簡易的な野球をしたり、細く丸めて剣をつくったり、廃品回収を狙って出さないとただただ家に蓄積していく存在だった記憶があります。しかし、今そのイメージでご家庭から古新聞を集めようとする、なかなか集まらない現状がありました。特に、幼児教育の現場で新聞紙を使うと保護者から「うちの子、新聞紙に触れるの初めてだと思います」という声を聞くことが少なくないです。

新聞紙で遊ぶ活動の際、まずはそこから考え子どもたちの活動を受け止めていきます。

◆可塑性の違い

新聞紙が集まらなかった時に使用したのがクラフト紙（ロール）でした。同じ紙素材であっても子どもの活動に違いが生じました。本講座ではそれぞれの素材の特性を捉えて遊びながら展開を考えていきたいと思っています。



◆描く、作ること、だけではなく

新聞紙やクラフト紙を使った造形活動ではどうしても描いたり作ったり、ということに特化した流れを子どもの活動として自然に受け止めてしまうことが多いかと思えます。紙で遊ぶことを通して、何を育むのか、一緒に考えていけたらと思います。



◆場所を生かして

遊ぶ場所も子どもが選ぶことが大事ですが、環境を設定し遊びの入り口にする 것도興味関心を持つ手立てになります。





